北海道新聞　2006年（平成18年）3月1日（水曜日）

病院隣に家族宿泊施設

旭医大　要望受け格安で提供

旭医大病院（石川睦男院長、旭川市）が、遠方から入院した患者に付き添う家族が格安で宿泊できるファミリーハウスを、同病院西隣に開設した。

看護師宿舎の一階の一部を改装し四室を設け、二月一日から運営を始めた。各室ともIDKでバス、トイレ付き。台所には自炊ができるように食器や鍋など完備している。

一室一泊当たりの利用料は、冬期（十一―四月）が一人使用で千八百円、二人使用で二千六百円。夏期（五―十月）は百円ずつ安くなる。このほか寝具料が一日一組百五十円かかる。

同病院は、これまでも希望があれば病院に近い職員研修施設を宿泊に提供してきたが、患者や家族の要望に応え、専用施設をより病院に近い場所に設置した。

同病院によると、開設以来の利用状況はほぼ満室が続いている。申し込み、問い合わせは、同病院事務部医事係☎0166・69・3008へ。

◇

ファミリーハウスは「病院近くのわが家」とも呼ばれ、北大病院、札医大病院（以上札幌市）、日鋼記念病院（室蘭市）などが病院に併設するハウスを持つ。問い合わせは各病院へ。

入院患者と家族を支えるボランティア団体「北海道ファミリーハウス」（札幌）は、空室のオーナーやホテルが提供するハウスを紹介している。一覧はホームページ（http://www3.snowman.ne.jp/~h-family/）にある。利用などの問い合わせは、事務局☎011・716・4161（平日の午前十時―午後四時）。

新しい本

がんを生きるガイド

日経メディカル編

どこで、どんな治療を受けたらいいか分からない。そんな「がん難民」をなくし、納得した医療を選ぶための、情報をまとめたガイドブックだ。

情報源や病院の選び方など闘病のための基礎知識や、主ながんの標準治療の解説、相談窓口や患者会など闘病を支える味方、進行がんの対処法や終末期の過ごすアドバイスまで、五十九人の専門家が六十七のテーマ別に闘病の知恵をまとめた。

巻末には、全国の主要な百十六病院（うち道内五病院）の症例や専門医の数など病院選択の際に参考となり得るデータのほか、主な患者会の一覧も掲載した。

B5判、312ページ、日経BP社、2520円。